

質疑応答

閉会

2016年度スピリチュアルケア研究講演会 人生の終幕への寄り添いを考える ～かけがえのない人生への伴走と分かち合いのケア～ 第1回「認知症の人と介護者への スピリチュアルケア」 実施結果-アンケート集計結果の概要

「終活」という言葉が日常的に用いられるようになりました。自分の人生の閉じ方を考えることも、旅立とうとする人への寄り添い方を考えることも、かけがえのない“いのち”を大切にす精神のあらわれではないでしょうか。2回シリーズの第1回目、川崎市で認知症の方への支援を長年実践されている佐々木炎先生による講演です。こころ豊かに考えることのできる時間を、多くのみなさまと分かち合いたいと思います。

日時 2016年10月7日（金）15：20～17：50

場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会挨拶・司会

田村 綾子

(聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授 社会福祉士・精神保健福祉士 日本スピリチュアルケア学会認定スピリチュアルケア師)

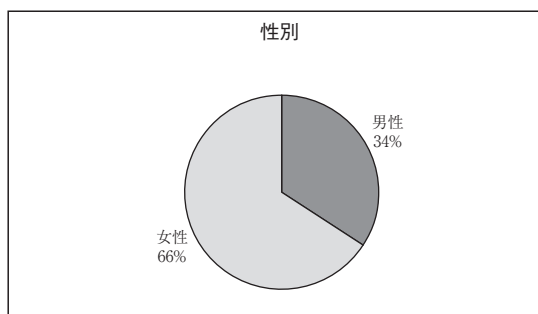
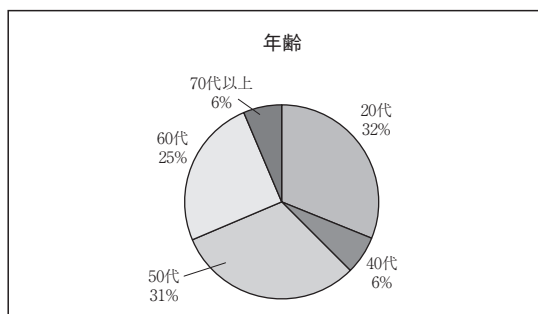
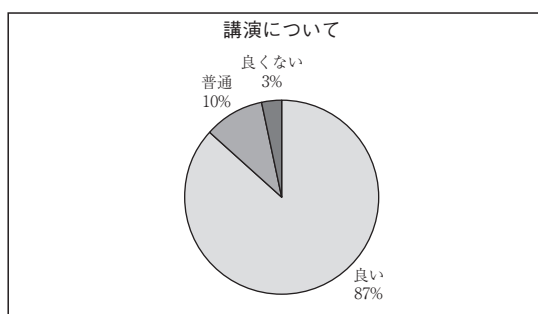
講演

佐々木 炎

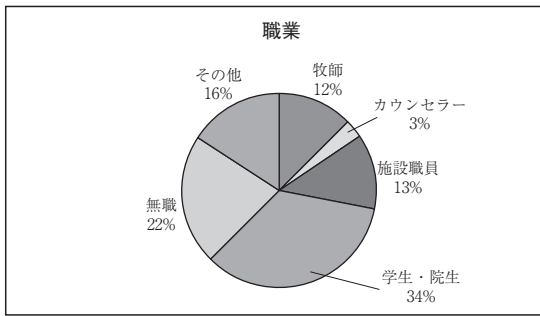
(中原キリスト教会牧師、NPO法人ホットスペース中原代表・主任介護支援専門員、東京基督教大学兼任講師)

【結果の概要】

- ・参加者は64名。内、アンケート回答者は33名。
- ・回答者のプロフィールとして、年齢は「20代」「50代」がそれぞれ3割。性別は女性が66%だった。
- ・講演については、「良い」が87%と高い評価を得た。
- ・意見として、「認知症についての考えが変わった」「専門的なことが具体的な例によってわかりやすかった」「認知症について理解の幅が広がった」など。

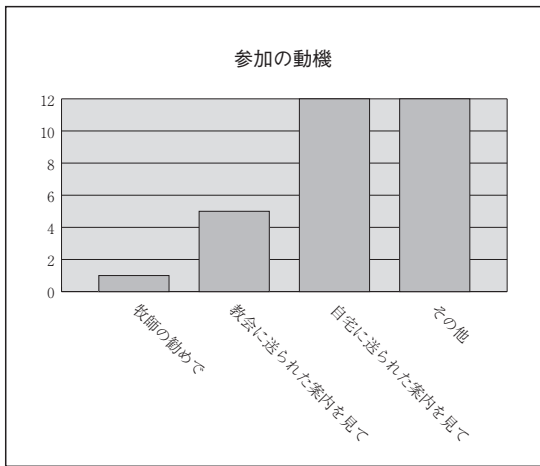


*回答者のプロフィールとして、年齢は「20代」が最も多く32%、次に「50代」が31%。性別は、女性が66%、男性が34%。



*職業別では、「学生・院生」が最も多く34%、次に「無職」22%。

「その他」の内容として、「主婦」「ケアマネジャー」「介護職」など。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。

「その他」の内容としては、「大学のチラシを見て」「先生の紹介」「先生の勧め」など。

今後、聞いてみたい講演会や希望

- ・物語の講座
- ・精神障害を持った方々が地域で暮らすうえでの生きにくさ、それを支援する側の心構えなどの講演会。
- ・不登校、ひきこもり、ニートなどへの支援。
- ・当事者からのメッセージ。
- ・「命、死、生きるとは何か」という答えがない問いかけについて講演してほしい。
- ・スピリチュアルケアに関する講演会（実践をまじえたような講演会）
- ・貧困問題について興味があります。貧困問題についての講演会が聞いてみたいです。

- ・いつも時に適った企画をありがとうございます。
- ・いじめの加害者、被害者の家族について聞いてみたい。

自由意見

- ・佐々木先生のお話は認知症の人のお話でありながら、私自身が日頃、後半人生を「豊かな」気持ちで過ごしていく事の考えと重なる（示唆のある）素晴らしいお話でした。帰宅後振り返りたいと思います。
- ・私は、認知症は悪いものだと考えていました。でも、講演を聞き、認知症についての考えが大きく変わりました。将来、自分も福祉の職業に就きたいと考えているので、「愛」を一番大切に望んでいきたいです。
- ・認知症について理解の幅が広がったと思う。認知症になることで「できなくなること」「失くすこと」ばかりというイメージがあったが、得られること、大切なことがたくさんあることを知り、認知症ケアの考えが変わりました。
- ・初めて聖学院大学に来ました。環境のとても良いところでした。キリスト教カウンセリング講座で、藤掛先生のお話をお聴きしたことがあります。受容より対決の必要なときがある！・・・いつか誰かの心に届き、生かされることのある講演会をこれからもお願いします。いのちを与えられている存在はすべて意味があること、改めてありがとうございます。
- ・施設で働いており、日々認知症の方々と接しています。本日の講演会は非常に参考になりました。より深くケアについて学べたと思ひ、明日からの介護に生かしていけたらと思います。ありがとうございました。
- ・事例を読む際の音楽はいらないのではないかと思います。講演の内容、事例などからの考えはとてもためになりましたが、音楽については違和感がありました。そんな演出がなくとも、事例の方の思いや魅力、力は伝わったのではないかと思います。全体的にはとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・“事例”と先生のスピリチュアルの考え方が重なっていて、とても胸にしみこみました。

“ストレングス”を発見するケアする者の構えの大切さを学びました。

“痛み、絶望”を通じての“希望”“統合”、そのための関係性の大切さを感じました。

- ・お話を沢山したいこと、伝えたいことがある方だと思いました。ポイントを絞ってお話されるのもっと理解できると思いました。
- ・認知症についての考え方が変わった気がします。色々考えさせられるお話でした。ありがとうございました。
- ・今回の講演を通して、スピリチュアルケアや認知症について、正しい知識を学び理解することが出来ました。ありがとうございました。
- ・スピリチュアルケアという言葉は初めて聞きました。認知症というどうしても負のイメージで捉えてしまっていたのですが、誰かが側にいてくれることの大切さや、自分が自分であることを見つめる機会だと思えば、希望があるような気がしました。
- ・専門的な話が具体的な例によって、わかりやすかったです。今後もお話を聞く機会があれば参加したいと思いました。ありがとうございました。
- ・私は60代ですが、もう少し若いころからこういうお話を聞く機会があれば良かったと思います。
- ・「認知症にも意味がある」良い知識を頂きました。ありがとうございました。
- ・佐々木さんの熱弁、一つ一つの言葉が心に響きました。
- ・講演の内容が難しくてわからないところもありましたが、最後の質疑応答で繋がった気がしました。
- ・これからの福祉の実習に向けて学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・もっとキリスト教に踏み込んだお話をしていたかったです。

質問

- ・私は67才、認知症になって生を終われたら幸せと思っています。わがままですか。やっとあのバアさんが召されてよかったなあ。しかし2年後に墓前の礼拝で、あのバアさんが妙に懐かしいなあ。と言われたいです。

5年前召天した母は、その4日前まで普通に会話出来ました。入院中一度、10日ほど帰宅でき、戻って2週間目に亡くなった。老衰（末期がん）。クリスマスのプログラムを牧師が見舞の折くださって、面会室で賛美を共につたえた。1/3朝昏睡、午後2時半召された。

- ・母は自分が認知症であるという自覚がありません（要介護2です）。その違いは何でしょう？
- ・事例4のお話を聞くまでどのくらいのお時間がかかりましたか？
- ・私も人に対し、生きていてだけで、呼吸して、笑顔でいてくれたら、それだけでいいんだよと思う時があります。しかし、その言葉を言ってもやはり理解されず、拒絶されてしまいます。そういった時、どうすれば伝わるのか本当に悩んでいます。
- ・“共感的理解”“スピリチュアルな関係性”のもてる介護者、ケアラーになるにはどのように自分を育てていけば良いのか？
- ・佐々木先生がスピリチュアルケアや認知症に興味を持ったきっかけをお聞きしたいです。
- ・佐々木先生は困難にぶつかったとき、いつもどのようにしていますか？
- ・佐々木さんが介護に携わろうと思った理由は何ですか？
- ・福祉の道を歩もうと思った「きっかけ」について。